**校内研修計画**

**甲州市立勝沼中学校**

**１　研究主題　　学びを振り返り、生徒と共に創る学びの実現**

**～個別最適と協働的な学びのためのICTの活用を通して～**

**２　主題設定の理由**

**勝沼中学校の学校経営における基本方針は、「持続可能な社会の創り手の育成」である。甲州市で進める「『夢をかなえる学び』のプロジェクト」の目指す、「令和の日本型学校教育の構築『目先ではなく子どもの１０年・２０年先のための甲州教育』を実践することで、基本方針の実現を目指したい。令和の日本型学校教育では、授業観を「一斉」から「個別最適な学び」へ、複線型への授業観・学習観の変革が急務である。学力の基盤となる主体的・対話的で深い学びの実現には、子供を主語にした複線型の授業を教師が意識的に仕組むことで学力を育てることと、学ぶ側の生徒の学級力を育てることが不可欠である。しかし、生徒を取り巻く社会も大きく様変わりし、貧困をはじめとするさまざまな困難を抱えている家庭や生徒も多く、特別な支援を必要とする生徒も数多く存在する。そこで、QU分析、授業評価シート等を活用し、ともに授業を創る（学ぶ）側の生徒の土壌づくりに生かしていくことが大切である。さらに、校歌の歌詞の中にある「学舎は常に愉しく」という言葉は、勝沼中のキーワードであり、誰一人取り残さない教育の実現に向け、子供たちにとって「明日また行きたい学校」となる魅力ある学び舎を創造していくために、学校生活の中で大半を占める授業が分かる、愉しい授業であることが不可欠である。生徒の声に耳を傾け、困りやつまずきの様相を把握し、それを授業改善に生かすことが必要である。また、生徒が授業に集中し、主体的・協働的に学ぶためには、落ち着いて安心して学べる「つながる力」のある学習集団であることが大切である。さらに、学びに向かう学習集団づくりには、教師の確かな教科経営力・学級経営力はもちろん、生徒が望ましい学習集団づくりに主体的に参画することが重要である。そこで、本年度は、授業の振り返りが「次の学びにつながる」ことを、生徒自身が体感することで、目的意識をもった振り返りができ、自分にとって、この経験はどんな意味があったのかを言語化し、アウトプットする。そして、あとで見返したときにその授業内容が鮮やかに思い出せるような授業の振り返りが当たり前になり習慣化されたときに、授業に対して見通しや目的意識を持って生徒と教師が共につくる学びが実現できるであろうと考えた。さらに、リフレクションは「反射」「反映」「内省」という意味があり、自分の行動や考え方を振り返り、見つめ直すことを意味する。今、行っている自分の学びがさらにより良いものになるためには、効率化や改善点を見つけ、振り返りにリフレクションの視点を取り入れることが重要になる。生徒自身がリフレクションを取り入れた振り返りを通じて、「自分はどう成長したのか」「何が上手くできなかったのか」を表現できるようになることで、「次はこうしてみよう」「これについて、もっと深く学びたい」など、子どもを主語にした、次のより深い探究へつながるような活動を本年度は仕組んでいきたい。さらに、学びの「ツール」となるICTを最大限活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで生徒と共に創る学びの実現を目指す。そのために、日常的な職員間での学び合い、講師を招聘しての校内研修の充実等の取り組みを行い、さらなる高みを目指した教師のICT活用や指導力向上をも図っていきたい。**

**３　研究の具体的内容と方法**

**・ICT活用**

**・ICTやOPPAシートを活用した複線型の振り返り活動の実践**

**・振り返りの方法・・・リフレクションの視点を取り入れる**

**・振り返りの実践**

**・振り返り結果から授業改善**

**・ラインズ(やｅboard)のICTを活用した家庭学習の実践**

**・実践データ（回数・頻度）**

**・実践の成果（ラインズ実践前と後の変化を調べる）**

**・実践についての生徒アンケート**

**・Fig jamの活用実践**

**・Figjamについての研修**

**・Figjaｍを使った実践**

**・ICTを活用した生徒が主体の複線型授業**

**・指導案検討**

**・研究授業**

**・個別最適な学び、協動的な学び**

**・単元テストや「朝学習」（定期テスト前１週間）、「学舎タイム」の設定**

**・朝学習・学舎タイムの実践※（生徒アンケート等）**

**・CＲＴ検査や全国学力学習状況調査、県学力把握調査の分析及び指導の改善**

**・分析**

**・指導の改善**

**・指導の改善前と後の変化（似た問題で正答率の変化を調べる）**

**・ソーシャルスキルトレーニング（アドジャン等）で居心地の良い居場所づくり**

**・その他甲州市の共同取り組み**

**・甲州市「ティーチャーズノート」の活用**

**・平和教育の実施（わだつみ平和文庫講演会、授業実践）**

**・１人１台端末を活用した「心の健康観察」**

**・甲州市授業デザイン・・・授業の構造化（めあて（学習課題）、見通しとゴール、ルーブリックの提示、）**

**・「hyper－QU」の実施とK-13法での分析及び活用**

**・継続実践**

**・ユニバーサルデザインを意識した学習環境づくり（掲示物やチョークの色等）**

**・読書活動の充実（朝読書の実施）**

**・キャリアパスポートづくり**

**・授業評価シートを活用し、授業規律の確立（時を守り、場を清め、礼をただす）**

**・授業後の少しの宿題や自主学習への取り組み**

**※本年度の学び舎タイムは、定期テスト前に設定し、①教科の先生が特別教室に居て、質問のある生徒が特別教室に移動し、質問を行う、②自身でワーク等勉強を進めたい生徒や仲間に質問したい生徒は、自分の教室で学習を進める、③学習進度の差の状況に応じて、補習が必要なクラスは、授業を行う。**

**【研究授業の実施】**

**生徒の資質・能力の育成に向けて、ICTを最大限活用しながら、研究副題である「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実をはかることと、学びを振り返り、生徒と共に創る学びの実現に向けた授業改善につなげる手立てとして、上記研究の具体的内容と方法（１）、（２）をふまえ、教科部会と学年部会に分け、研究主題に迫るブロック交流研究での授業公開や一人一実践での授業公開を行うこととする。**

**※ブロック交流研究や一人一実践では積極的にICTを活用した授業を試み、校内研究のテーマに沿った授業を計画し、授業参観を計画的に行い、学校内でお互いに参観し学び合う時間を確保する**

